

(双葉中) 学校 学校関係者評価書

令和7年2月13日(水)

(双葉中学校) 学校関係者評価委員会作成

第1回 学校関係者評価委員会

実施日: 令和7年2月14日(水) 午後5時～

会場: 双葉中学校会議室

参加者: (学校関係者評価委員)
(学校側)

I 学校側から提案された内容

○教職員評価について

- ・多くの項目で良い結果が出ている。
- ・特に職員の協力体制が大きく向上している。

○学習指導について

- ・学習全般に対して教師自身の評価数値が高かった。
- ・学習者主体の授業づくりへの意識が高まり、その中での ICT 活用が多く教員に広まり、授業で実際に使われるようになった。
- ・生徒が学習を自己調整しながら主体的に調べてまとめるなどの個別最適な学びやそれに伴う助け合いや意見交換などの協働的な学びが見られるようになった。

○生徒指導について

- ・規律正しい学校生活とコミュニケーション能力の向上が見られる。
- ・教職員の積極的な挨拶運動が生徒間の挨拶を促し、コミュニケーションを円滑にしている。
- ・挨拶については改善が見られたものの、更なる改善の余地がある。

○生徒・保護者アンケートについて

- ・例年と比べて大きなプラスやマイナスはない。・生徒のアンケートでは「誰とでも挨拶をする」が少し上昇した。

○学校運営・特別支援教育について

- ・通級指導やサポート教師の数が不足しており、授業における支援が手厚くできていない現状がある。

II 協議された主な内容

○専門用語の内容についての共通理解

スクールカウンセラー(SC)やスクールソーシャルワーカー(SSW)、キャリアパスポート、ウェルビーイング、QUテストなどについて

○職員の協力体制について

○校内研究の在り方について

○働き方改革への取り組み(教職員の勤務時間短縮や業務改善に向けた取り組み)について

<学校関係者評価書>

I 全体評価

- 学校運営・日頃の教育活動の実践について
 - ・高い水準にあると評価できる。先生たちの感覚がいい方向に変わったのが見れた。積み上げてきた努力が先生たちを変え、これが何年か後に生徒、保護者に伝わっていくであろう。
- 教職員間の信頼関係について
 - ・構築されている。先生方の学年内、各学年間で横のつながりがあり、連携がよくとれまとまりがあると感じた。
 - ・ジェンダーや多様性など、子供たちが今の時代にうまく従順出来ているのは先生たちのおかげと感じている。
- 学校・地域・保護者の連携意識、参画意識について
 - ・高い。地域と共にある学校に向け、お便りの配信やHPの更新を日々行っている。
 - ・CSを通して民生委員など地域の方と連携していく方法を模索していきたい。

II 特徴

- 教職員の意識改革について
 - ・自己評価が向上し、教育活動への意欲が高まっている。長年の努力が実を結び、教職員の意識改革が進んでいる。
- 学習指導の充実について
 - ・学習者主体の授業づくりへの意識が高まっている。その中でのICT活用が浸透し、生徒の主体的な学習を支えている。
 - ・生徒が学習を自己調整しながら主体的に調べてまとめるなどの個別最適な学びやそれに伴う助け合いや意見交換などの協働的な学びが浸透している。
- 生徒指導の改善について
 - ・各クラス、規律的でありながら、コミュニケーションを図るなどのリレーション面が向上した。
 - ・生徒会の企画やPTAの取組、教員からの意識的な挨拶が生徒間の挨拶を促し、誰とでも挨拶をする生徒が増加した。
- 働き方改革への取り組みについて
 - ・教職員の勤務時間短縮や業務改善に向けた取り組みをできることから進められている。

III 今後の課題として意識されたいこと

- 情報発信について: 学校便り等で専門用語の解説を加え、誰にでも伝わる内容で発信し、保護者や地域住民への情報提供を充実させる。学校の取り組みや情報を効果的に発信する手段を検討する。
- 特別支援教育: 通級指導の充実や特別支援を必要とする生徒へのサポート体制強化が求められる。
- 校内研究の活性化: 教員の専門性向上と組織的な研修体制の確立のために、校内研究のあり方を見直していく。個人テーマから全体共通テーマに戻し、全体的な教員の資質の向上をねらい若い先生方も巻き込んで組織的に行う。その中で教員が主体的に学びを深めるための環境を整備する必要がある。
- 教職員の負担軽減: 働き方改革を進め、教職員の負担を軽減する必要がある。引き続き教職員の勤務時間短縮や業務効率化に向けた具体的な対策を講じていく。
- 学校と地域の連携強化: CSの活動をできることから始め、地域社会との連携を深めることが重要である。

学校評価の結果を踏まえ、上記の課題を解決し、学校運営の改善を図ることが重要である。教職員、生徒、保護者、地域社会が一体となって、より良い学校づくりを目指していく必要がある。

記載責任者(双葉中学校 学校関係者評価委員) 氏名: 宮坂 雄次郎

